令和5年度　学校経営計画・学校評価シート

高知若草特別支援学校土佐希望の家分校

《高知県の教育の基本理念》	（1）学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち （2）郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	学校像	○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が成長と発達を実感できる教育を行う学校 ○地域になくてはならない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校
《取組の方向性》	《6つの基本方針》 ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にあるすべての子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働 ⑤就学前教育の充実 ⑥生涯学び続ける環境づくりと安全・安心な教育基盤の確保 《6つの基本方針に関わる横断的な取組》 ①不登校への相応的な対応　②学校における働き方改革の推進		児童生徒像	〈知〉自ら学ぶ ○学ぶ楽しさを感じ、自ら進んで学習する意欲や態度を身につけた児童生徒 ○社会生活に必要な知識や技能、態度を身に着けた児童生徒 〈徳〉意欲・協調・協力 ○人や環境と積極的に関わり、自立し社会参加しようとする意欲を持った児童生徒 ○お互いを認め合い、思いやりの気持ちで協調・協力しようとする児童生徒 〈体〉健康・体力 ○卒業後も一人一人の持てる力を発揮し、将来にわたって豊かに生きるため、健康や体力、基本的生活習慣を身に着けた児童生徒

目指すべき姿の実現に向けた取組の概要	（1）学校教育目標、教育課程、日々の授業のつながりを意識したカリキュラムマネジメントサイクルの確立による児童生徒一人一人の実態に応じた教育課程の編成 （2）卒業後の自立と社会参加を見据えた教育の充実と豊かな心の育成 （3）教員の専門性の向上と指導力の育成 （4）児童生徒の命と人権を守る安心安全な学校づくりの推進 （5）特別支援教育のセンターとしての支援機能や情報発信、保護者・関係機関等との連携による開かれた学校づくりの推進 （6）学校教育目標の達成をめざし、やりがい、働きがいのある学校組織の運営と働き方改革の促進	

《重点取組項目》

（評価　A:目標を十分に達成　B:ほぼ目標を達成　C:やや不十分　D:改善を要する）

項目		取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】		中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】		学校関係者評価		見直しのポイント【A】
学校設定項目	教育課程の質の向上	○教育実践の共有や蓄積による系統的な指導のための年間計画や単元・評価計画の充実を図る。 ○「重度重複障害のある児童生徒における目標設定ガイドブック」を作成、活用していくが、今後も実践を積み重ね修正・改良を加える。 ■教育課程改善シートについて、新様式を作成したが、十分な活用に至っていないため今後も公開授業等実践をもとにさらに検討を重ねていく必要がある。 ■育成すべき資質・能力や観点別評価と指導の実際についてイメージがもちにくい。 （目標） ①系統性のある年間指導計画・単元計画の作成 ②合科、教科等あわせた指導の位置づけを明確にし、目標設定や学習評価の充実を図る ③年間指導計画や単元計画表の事例を蓄積し実践をまとめる	（現状・課題） ○単元計画をもとに年間2回の公開授業と授業改善のサイクルは定着している。 ○「重度重複障害のある児童生徒における目標設定ガイドブック」を作成、活用しているが、今後も実践を積み重ね修正・改良を加える。 ■教育課程改善シートについて、新様式を作成したが、十分な活用に至っていないため今後も公開授業等実践をもとにさらに検討を重ねていく必要がある。 ■育成すべき資質・能力や観点別評価と指導の実際についてイメージがもちにくい。 （目標） ①系統性のある年間指導計画・単元計画の作成 ②合科、教科等あわせた指導の位置づけを明確にし、目標設定や学習評価の充実を図る ③年間指導計画や単元計画表の事例を蓄積し実践をまとめる	①系統性のある年間指導計画・単元計画の作成 ・全教員2サイクルの公開授業実施。 ・校内全体で授業を見あったり公開授業で他学部の取組の参観及び事後研修への参加し、教科の系統性について検討、教育課程の改善につなげる。（研究部） ・教育課程改善シートを活用し、児童生徒の教育課程の改善を図る。（教務部） ・年間指導計画及び単元計画について児童生徒の発達段階に合わせたグループ別の検討。（研究部） ②合科、教科等あわせた指導の位置づけを明確にし、目標設定や学習評価の充実を図る（ときき向上委員会） ・目標設定ガイドブックにの改善充実。 ・合科、教科等あわせた指導の改善。 ③年間指導計画や単元計画表の事例を蓄積し実践をまとめる（R5.6） ・活動のまとまりや開間、適切な教材の選定や配当時間についてグループ別で検討し、事例をまとめる。（研究部・各発達グループ）	B	①全教員が、1学期中に単元計画をもとに公開授業を実施した。授業改善シートを活用し、2学期以降、授業を行いながら2サイクル目の公開授業を実施予定。2学期以降の実施計画については、研究部が現在計画中であり、今後周知の行う。 【1学期公開授業実施率100%】 ①教育課程の改善に向けて、福岡大学の徳永教授とリモートでつなぎコンサルテーションや研修会を実施・受講した。今後も本活動を実施しつつ教育課程の改善・充実を図る。【コンサルテーション2回、校内研修1回実施済み】 ①年間指導計画、単元計画について、グループ別研修を実施。今後も年間を通して実施してく。 ②年度当初から各学部で合科、教科等あわせた指導について検討し、合わせる教科等の精選を行った。 ③発達段階別のグループ研修において、生徒個々の学習活動について検討していく。2学期以降は、それらの充実を図り、授業実践後に事例として蓄積していく。	B	①2学期以降、11月末までに全教員の2サイクル目の公開授業を実施する。 ①教育課程の改善について、福岡大学の徳永教授と連絡調整を行い、2回目の講演に向けて、本校の課題を絞り込みながら6教職員の資質向上につながる講演を目指す。 ①各学部や発達段階別のグループ研修において、年間指導計画や単元計画について様式の改定も含めて検討する。 ②合科及び教科等合わせた指導については、今後も教科数や内容についての検討を重ね、次年度の教育課程及び時間割に反映できるようにする。 ③発達グループ別での事例検討会を引き続き行い、グループ内での課題について検討を重ね、3学期には各グループでの発表を行い、課題の共有を図る。	B	①公開授業について、12月に実施した教員もいたが、全員2サイクルの公開授業を実施することができた。今年度は、1回目の公開授業の振り返りをもとに反省点や改善点について協議することができた。【2サイクル公開授業実施率100%】 ①教育課程の改善について、学校経営力アップ事業を活用し、福岡大学の徳永教授に4回のコンサルテーションと2回の講演を実施することができた。障害の重い子どもの教科学習について様々なご示唆をいただき、次年度の教育課程の考え方や学習時間、教科の取り扱いなど参考になることが多く、学びの多い研修となった。 【4回のコンサルテーション、2回の講演(リモート)】 ②合科及び各教科等あわせた指導について、次年度は合わせる教科の組み合わせや教科数について、各学部を中心に検討を重ね、次年度は変更する方向である。 ③発達段階別のグループ研修では、授業づくりや年間計画、単元計画等、検討を重ね、2月には、各グループ内の課題等について発表を行い全校で共有することができた。	B+	【学校評価アンケートにて】 ■教育課程の改善（質の向上） 【回答数　13名】 ①そう思う、ややそう思う（プラス評価） ②あまり思わない、思わない（マイナス評価） ③わからない ・教科指導において、児童生徒の力がついている。 ①100%②0%　③0% ・学習のねらいや評価の十分な説明ができた。 ①92.3%　②0%　③7.7% 【学校運営協議会にて】 ・教育実践等、学校全体でベクトルを合わせて取り組んでいると感じた。 ・授業について、子どもの実態に合った方法や教材を考え、子どもたちにとって楽しい授業ができている。また、ICTの活用力も向上している。 ・施設に面会に行くたびに成長していることに驚くことがある。 ※以上のようなことから学校評価と同じB評価をいただいた。	①公開授業については、次年度も引き続き2サイクルで実施する。児童生徒の実態に即した授業実践が行えるよう、授業後の振り返りを各学部もしくは各クラスの中で行い、学習内容や教材が児童生徒の学習評価に連動しているかどうかの検証を図り、指導と評価の一体化を目指す。 ②学校経営力アップ事業での講演からいただいたヒントをもとに、教科の時間数や学習内容の精査等、本校で作成した目標設定ガイドブックの改善を含めときき向上委員会等で検討し、教育課程の改善につなげる。 ②学習時間の取扱いや各教科等あわせた指導の教科数の調整、教科の組み合わせ方、年間指導計画との整合性について確認しつつ、より良い学習形態を模索する。 ③発達段階別のグループ研修を次年度も引き続き実施する。 ③2か年計画としている年間指導計画や単元計画の蓄積物をまとめ、今後の参考資料となるようにする。
専門性の向上	教員の専門性の向上	○教科学習における授業実践力の向上。 ・ICTの効果的活用 ○自立活動と教科の関連性を理解し時間的指導、教科等における指導の充実 ○関係機関との連携強化	（現状・課題） ○ICT機器の活用率は上がっている。 ○chromebookの研修を行い基礎的な知識は身につきつつある。今後も研修を重ねていく。 ○単元計画に自立活動の関連項目を記入することで教科と自立活動のつながりを意識できるようになった。 ○隣接施設との会議の実施やリハビリとの連携、外部専門家活用事業の実施など関係機関と連携し児童生徒の支援の充実を図った。 ■ICTの活用に対し、個人差や苦手意識がある。 ■教科指導での自立活動の手立てや指導が不十分。 （目標） ①児童生徒の興味関心を引き出すICT機器の活用 ②自立活動と各教科との関連を意識した授業の実践 ③関係機関と連携し、専門性の向上を図る	①児童生徒の興味関心を引き出すICT機器の活用（児童生徒部） ・ICT機器の活用について情報共有を行う。 ・ICT機器を活用した教材づくりの推進。 ・GIGAスクールサポーターのと連携。 ②自立活動と各教科との関連を意識した授業の実践（研究部） ・教科の後ろ支えとして、必要な内容を精査し、実践する。 ・学びの履歴を活用し、児童生徒の実態把握を丁寧に行う。 ③関係機関と連携し、専門性の向上を図る（研究部・進路・地域支援部） ・土佐希望の家医療福祉センターと情報交換を密にし、より良い連携を図る。 ・外部の専門家から支援方法を学び専門性の向上を図る。	B	①全ての児童生徒が、学習活動の導入や児童生徒の興味関心に合わせて、ICT機器を効果的に活用している。主にVOCAやiPadの活用率が高く、chromebookの活用率が低いため、今後はGIGAスクールサポーターとの連携も図りながらchromebookの活用についても推進を図る。 【ヨヤのICT活用率100%】 ②単元計画に自立活動の記載欄を設けていることで、児童生徒の支援における自立活動の位置づけを明確にしている。 ③STを招聘し、摂食等の研修を行ったりPTを招聘し、身体のリラクセイション等について研修を行ったりした。今後の予定としてST、ORTによる研修も計画している。 ③進路研修として、児童生徒が利用している施設の代表を招聘し、研修を実施した。また、施設見学も実施し、放課後デイ等の活動について理解を深めることができた。 【施設見学(施設からの受入可能人数12名/12名参加】	B	①ICTを活用した授業づくりは継続実施する。 ①chromebookの活用率を向上させるべく、chromebookのJamboardを公開授業後の事後研修で活用したりGIGAスクールサポーターと協力して様々な活用方法について研修を行ったりする。 ②自立活動の理解を深め、教科と自立活動のねらいについて、内容や標記の仕方等、今後も研究し、単元計画へ反映していく。 ③今後も外部専門家活用事業を活用する。講師を招聘し、本校児童生徒の実態に合った支援方法を習得する。 ③高等部3年生の卒業後の進路について、関係機関と連携を図りながらよりよい進路指導の充実を図る。	B	①ICT機器の活用について、コミュニケーションツールであったり興味関心を引き出すためのツールであったりと個々の児童生徒に上って活用方法は異ならが、全ての児童生徒が活用することができた。 【ICT活用率100%】 ①Google Works for Educationの活用については、今年度は研修機会を設けることができなかった。教員間では、Jamboardやclassroomを活用する場面もあったが、十分な活用ということは不十分である。また、児童生徒の活用においては、Meetを交流及び共同学習やボッチャ交流会で使用することはあったが、単発な活用にとどまっている。また、学校評価アンケートの教職員への設問として、Google Works for Educationの活用に取り組んだかという問いに対し、1/3がマイナス評価であった。 ②自立活動については、本校の自立活動抽出シートの活用方法の研修や学部会にて、個々の実態に合わせた指導の検討ができた。 ③隣接の土佐希望の家医療福祉センターと連携を図りながら学習活動を行うことができた。 ③外部専門家の活用について、ST、PT、ORTなど専門家の研修を受講し、児童生徒の実態把握や支援の参考となった。	B+	【学校評価アンケートにて】 ■専門性の向上（自立活動の充実・ICT活用・関係機関との連携 【回答数　13名】 ①そう思う、ややそう思う（プラス評価） ②あまり思わない、思わない（マイナス評価） ③わからない ・自立活動の充実及び保護者への十分な説明ができたか。 ①92.3%　②0%　③7.7% ・ICT機器を活用した従業づくりの推進 ①84.6%　②0%　③15.4% ・隣接施設や外部専門家との連携ができたか。 ①84.6%　②7.7%　③7.7% 【学校運営協議会にて】 ・視線入力装置の活用等、ICT機器は進化しているのでこれからもどんどん高めていってほしい。 ※その他、肯定的な意見をいただき、自校B評価に対し、B+の評価をいただいた。	①次年度も引き続き有用なICTの活用を目指す。全ての児童生徒がiPadやVOCA、chromebookなど児童生徒の実態に合ったツールを使用し、興味関心の幅を広げたりコミュニケーションツールとして活用したりしながら、学習活動の質の向上につなげる。 ①Google Works for Educationの活用について、研修計画を立て、GIGAスクールサポーターと協力しながら研修を実施する。 ②自立活動については、次年度も引き続き自立活動活用方法の研修や各学部、クラスでの読み合わせなどを実施し、児童生徒個々の実態に即した自立活動が展開できるよう検証を重ねる。 ③隣接施設との連携について、次年度は連携を強化していくため、施設との連絡会の在り方を双方で検討していく。また、児童生徒への支援についても各病棟等と連絡調整を行いながら連携を行う。 ③次年度も外部専門家の活用を行い、児童生徒の実態に合った支援を行う。
キャリア教育の充実	自律と社会参加につなげる教育力の向上	○子どもたちの豊かな生活につなげる文化、芸術、スポーツ活動の充実を図る。 ○子供たちの未来を支える環境教育を推進する。	（現状と課題） ○若草3校での文・芸・スの取組に参加する。 ○紙とあそぼう作品展やスピリットアート展へ作品を出展した。 ○ときき科学体験を児童生徒、教職員で実施した。 ○持続可能な取組として、卒業後の生活を見越した活動を授業の中に取り入れたり、移行支援会議で情報の共有をしたりした。 ■キャリア発達段階表について作成はしているが十分な活用には至っていない。 ■校務支援システムによる個別の教育支援計画の入力は十分でない。 （目標） ①若草3校の文化・芸術・スポーツの交流や市中の作品展への出展 ②卒業後の生活を豊かにするキャリア教育の充実	三芸術鑑賞やスポーツイベントに参加し文化・芸術・スポーツ活動の充実を図る ・若草3校の交流イベントへの参加。（教務部） ・紙とあそぼう作品展等への出展。（学部） ・芸術鑑賞会やときき科学体験、とききピック等の開催。（総務部・児童生徒部）	B+	①外部からピアノの奏者を招き、保護者の参加行事として、芸術鑑賞会を行った。2学期には同じく外部から奏者を招聘し、ファミリーコンサートを実施する。 ①紙とあそぼう作品展に各学部で出展し、小学部が高知県知事賞を中・高等部が入選の賞を受賞した。 ①若草の交流イベントとしての巡回作品展について、夏季休業中に打ち合わせを実施し、本校は12月の展示を予定している。スポーツ交流としては、肢体不自由部門のあ5校でのボッチャ大会を計画中である。 ②個別の教育支援計画の校務支援システムへの移行に伴い、内容の精選や書き方等進路・地域支援部内で検討している。年度末には校内周知を図り、スムーズな移行を図る。	B	①2学期もPTA行事のイベントとして、外部から楽器演奏者を招聘し、芸術鑑賞会を実施する予定である。 ①高等部はスピリッツアート展に出展する。 ①若草本・分校の交流イベントとしての巡回作品展や肢体不自由部門のあ5校によるスポーツ交流会（ボッチャ大会）を実施する。作品展は、保護者の参観行事に合わせて作品展示をし、本取組を周知する。スポーツ交流会は、各校との交流を目的に実施する。 ②年度末には、個別の教育支援計画のスムーズな記入ができるよう引き続き検討を行う。なお、若草本・分校による進路指導の会について、積極的に意見を交換し、個別の教育支援計画の充実を図る。	B	①今年度、文化芸術部門では「紙とあそぼう作品展」「スピリットアート展」「南国市の市展」等に作品を出展した。「紙とあそぼう作品展」では、高知県知事賞を受賞。「スピリットアート展」「南国市の市展」等で入選するなど、たくさんの賞をいただいた。芸術鑑賞では、外部の演者を招きピアノコンサートを実施したり様々な楽器を演奏する楽団を招いたりして保護者とともに有意義な時間を過ごすことができた。また、「4校合同作品展」をとききピックに合わせて開催することで、他校、自校の児童生徒の作品など保護者のかたにも参観していただく機会となった。 ①スポーツ部門では、体育的な行事として「とききピック2023」や肢体不自由部門のあ5校が集う「スポーツ交流会」に参加することができた。スポーツ交流会については、本校が運営の担当校として実施することができた。 ②昨年度末から引き続き、個別の教育支援計画について、記入例を作成、精査、改良を加えてきた。まだ十分ではない部分もあるので、今後も引き続き改善を重ねていく必要がある。	B	【学校評価アンケートにて】 ■キャリア教育の充実（質の向上） 【回答数　13名】 ①そう思う、ややそう思う（プラス評価） ②あまり思わない、思わない（マイナス評価） ③わからない ・作品展への出展及び芸術鑑賞の機会の設定ができていた。 ①76.9%　②7.7%　③15.4% ・スポーツ活動の積極的推進ができていた。 ①76.9%　②0%　③23.1% 【学校運営協議会にて】 ・近年、児童生徒が支援をしてもらうことが当たり前になっている。自ら発信できる児童生徒の育成が大切である。 ・文・芸・スについて、在学中から卒業後を見据えた取組みを行っていく必要がある。 ※以上のようなことから学校評価と同じB評価をいただいた。	①若草3校のR5～7年度のミッションとして引き続き文化・芸術・スポーツの推進を図る。文化・芸術部門では、今年同様、作品展への出展や芸術鑑賞会などを企画し、児童生徒が楽しめる活動を行う。 ①スポーツ部門では、スポーツ交流会の実施や校内での体育的行事及び今年度も実施した歩行遠足やスパイダー遠足など身体を動かす機会を設け、全児童生徒で取り組む。 ②若草3校のキャリア教育推進チームでの会等において、それぞれの学校の取組やキャリア教育発達段階表の様式等を参考にして、本校の児童生徒に合ったキャリア教育発達段階表を作成する。 ②児童生徒の卒業後のよりよい生活に向けて、持続可能な活動を模索し、授業実践を行う。
働き方改革		○効果的な教育活動を行うために、現状を問い直し業務の改善を進める。 ○自らの働き方に向き合うことで、生活の質を高め、教職人生を豊かにする。	（現状・課題） ○係の業務を分掌業務に移行しとすることで会議を減らすことができた。 ○繁忙期を除き学校で設定している退勤時刻18:30(ほぼ100%達成)や毎週水曜日のノー残業デイ(70%程度達成)について意識することができている。 ○3校協働により業務の軽減につながっている。 ■毎年業務の見直しを行っているが教員の実感につながっていない。 ■学部間、分掌部間の連携が不十分。 （目標） ①業務の削減、平準化を図り効果的な教育活動を目指す ②教員間の協力体制を構築し、互いに認め助け合える関係づくりの推進（チームときき） ③若草3校で教育的ニーズを共有し、改善を図る	①業務の削減、平準化を図り効果的な教育活動を推進する ・進捗管理シートを活用し、業務の改善を図る。（各学部・各分掌等） ・教材研究日の有効活用 ・退勤時刻18:30、毎週水曜日のノー残業デイの継続。 ②教員間の協力体制を構築し、互いに認め助け合える関係づくりの推進。（チームときき） ・主事会を活用し、学部・学級の協力体制を構築する。 ・職朝前のラジオ体操の継続実施。（総務部） ③若草3校で教育的ニーズを共有し、改善を図る。 ・社会参加を進めるための若草3校の組織への参加。（各学部・各分掌部）	B+	①年度当初に各学部及び分掌ごとに進捗管理シートを作成し、個々の業務の可視化を図った。年度末には各部署の反省を行い次年度につなげていく。 【作成率100%】 ①教材研究日について、単元計画作成日などのアナウンスができていないこともあるため、今後はきちんとアナウンスをしていく。その他、教材研究日と併せてクラスでの打ち合わせを行う時間も設けることができている。全般的に教材研究日を設けることでクラスで話し合える機会も増えた。 ①退勤時刻について、繁忙期を除いて18:30には退勤できている。ノー残業デーについては、職朝で周知は行っているが、達成率は低い。今後も継続して職朝でのアナウンス等を続けていく。 ②各学部での協力体制について、教員の過不足を調整しながら協力し合える環境ができている。 ②教員の福利厚生として行っているラジオ体操は、参加者の増減はあるものの継続実施できている。【実施率100%】 ③教育課程研究集会では、若草3校で情報を共有することができた。	B	①1月には、業務の進捗管理シートをもとに各学部、分掌等の反省を行い、業務の精選や各分掌での業務内容の充実を図るなど次年度に向けて改善・充実を図る。 ①教材研究日については、単元計画の作成日・検討日を有効に活用し、授業の充実を図る。また、児童生徒に必要な教材教具の作成や授業内容の考案を行う等自己研鑽できるようアナウンスをしていく。 ①働き方改革の一環として、今後も退勤時刻は引き続き18:30とし、その時刻が近づいてきたらアナウンスするなど、退勤時間を意識した働き方の定着を図る。ノー残業デーも同様で引き続き職朝でアナウンスし、退勤時刻の17:30が近づいたら再度アナウンスを行い、退勤を促す。 ②各学部での協力体制については1学期同様、各主事で教員の過不足を確認、調整し、協力し合える体制を継続する。 ②ラジオ体操は継続実施する。 ③若草本・分校において、今後も連携できることは連携しながら各校の教育的ニーズの充実・改善を図る。	B	①今年度から係として行っていた業務を各学部、分掌に振り分け、会議の削減を行った。それらの成果等については、各学部、分掌部等、業務の進捗管理シートをもとに今年度の振り返りを行い、運営委員会で業務の精選や次年度の体制について検討、各分掌等の業務内容の担当分掌の変更を行い、業務の平準化を図りよりスムーズに学部、分掌運営が行えるよう取り組んでいく必要がある。 ①教材研究日の単元作成時間では、次の単元の作成や継続中の単元の児童生徒の実態の書き込み、整理等を行った。年間を通して、単元計画作成・検討日当日の職朝でアナウンスをし、16:00より30分間取り組んできた。 ①働き方改革として、退勤時刻の18:30は多少の誤差はあるが、時刻が近づいてきたらアナウンスをし、退勤を促してきた。繁忙期を除き、時間内に業務を終えることができている。ノー残業デーについては、全体の半数程度は達成できているが、十分ではなかった。 ②学部間を越えての協力体制については、職朝後各クラスの教員の過不足を主事同士で確認し、協力し合える環境ができた。 ②職朝前のラジオ体操については、今年度総務部の業務に位置付け、日々取り組むことができた。 ③3校カリマネ委員会やキャリア教育推進チームでの会議等において、各校の課題点や成果等について情報共有を行うことができた。	B	【学校運営協議会にて】 ・働き方改革の観点から考えるとよくないことかもしれないが、スポーツ等のイベントが休日にあっても先生方が応援に来てくれる。先生方のそういった気持ちはいいなと感じる。 ・卒業後の生徒の成人式などにも参加していただいて申し訳ない気持ちがある。方法を考えるとつ働き方改革につながれば。 ・街に医師が患者を診ることは、日夜を問わずということを言われていたが、今は、担当の医師が患者を診る、その他の医師はしっかりと休みを取るというようなルールを設けることは大切である。 ・負担感と多忙感は、人によって差がある。早く帰る人でも多忙感を感じている人もいると、遅く帰る人でも全然平気という人もいる。ですので、自分たちで業務の取捨選択を行いながら取り組む必要がある。 ※以上のようなことから学校評価と同じB評価をいただいた。	①引き続き会議や業務の精選を図り、教職員が働きやすい、働き甲斐のある職場を目指す。 ①次年度も引き続き教材研究日を設定し、子どもと向き合う時間や自己研鑽できる時間を設定する。 ①教材研究日に自主研修などを設定し、教員が日々不安に感じていることを知りたいことなど、個々のニーズに合わせた研修を実施する。 ①退勤時刻等は引き続き18:30退勤、ノー残業デーは17:30退勤を継続する。 ②学部間の協力体制について、現状を維持する。 ②教職員の福利厚生として、ラジオ体操は継続していく。 ③若草3校で共有できる教材やさまざまな様式について情報共有を図る。